

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「ティンガティンガ」って知ってる？パート①～

「ティンガティンガ」というアフリカのペンキアートを知ってますか？
このペンキアートに取り組み、作品を描かれている日本人に SHOGEN
(ショーゲン) さんという方がいらっしゃいます。

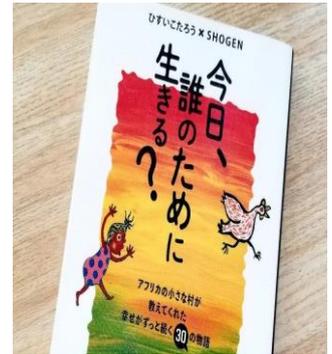
SHOGEN (ショーゲン) さんは、京都でこの「ティンガティンガ」というア
フリカのペンキアートに出会い・・・

「これだ！」って脳天を直撃するような感じを受け・・・

「もうアフリカに行くしかない！」「これだ！これで生きていこう」と、翌日には会社に
退職願を出し、単身アフリカに向かいました。そしてタンザニアのブンジュ村で
生活しながら、絵を学ぶと同時に、村長や村人との交流により「人の生き方の本
質」を学んだそうです。

この SHOGEN (ショーゲン) さんと、この通心でもよく登場するひすいこたろうさんが、～アフリカの小さな村が教えてくれた幸せがずっと続く30の物語～というサブタイトルの本を出されています。

今回はそのプロローグから・・・



つかぬことをお伺いしますが・・・シイタケをたべたことがありますか？・・・あるんですね。

では鶏の卵をたべたことがありますか？・・・あるんですね。

じゃあ、薬が家にあったりしますか？・・・それもありませんね。

じゃあ最後の質問。旅行に行ったことはありますか？・・・え！それもありません！

これ、全部、江戸時代の庶民にとっては贅沢なことでした。それに家にクーラーや冷蔵庫のある暮らしは、あの徳川家康だって味わえていないんです。

僕らは、今までの人類の歴史の中で、一番贅沢に生きています。なおかつ、一番便利で、一番安全に生きています。さらに映画や漫画、ゲームなど楽しいコンテンツに囲まれた毎日を生きています。

では、僕らは江戸時代の人と比べて、何万倍幸せになっているのでしょうか？

江戸時代末期、海外からやってきた外国人たちは、日本人を見て・・・

「日本人は幸せで満足している」「町中に上機嫌な様子がゆきわたっている」「顔がいきいきしている」と記しています。あの黒船でやってきたペリー提督も・・・「日本で不機嫌そうな顔には一つとて出会わなかった」と言っています。

当時の日本は、今よりももっともっと貧しかったにもかかわらずです。

では、今の日本に上機嫌な様子がゆきわたっているのでしょうか？

贅沢ができて、便利になって、安全になった結果、僕らの幸せは激減してはいないのでしょうか？

じゃあ、どうしたらいいのか？

そのすべての答えが、アフリカの「ブンジュ村」にあったのです！

「今日、誰のために生きる？」～アフリカの小さな村が教えてくれた幸せがずっと続く30の物語～

ひすいこたろう × SHOGEN (廣済堂出版)

気になるでしょ！本読んでみてください。この SHOGEN さん、ブンジュ村で、こう言われたそうです
「ショーゲンは、いつも無駄を省いて、効率よく生きようとしているけど、無駄とか、しょうもないことの中に、幸せっていうものがあるんぜ！」「ショーゲン！お前の幸せを感じる心はどこにいったんだ。」と・・・
これを読んで・・・ある歌手のこの言葉を思い出しました。

「**「幸せ」を手に入れるんじゃない！「幸せを感じる心」を手に入れるんじゃない！**」を・・・